

2013 年度 決算の概要

主要計数

(単位:億円)	2012年度	2013年度	増減
業務粗利益(信託勘定償却前)	36,342	37,534	1,192
国債等債券関係損益	3,367	1,428	▲1,938
営業費(▲)	20,950	22,893	1,943
実質業務純益	15,392	14,641	▲750
与信関係費用総額 ^(*1)	▲1,156	118	1,275
株式等関係損益	▲536	1,445	1,982
株式等売却損益	336	1,575	1,238
株式等償却	▲873	▲129	743
その他の臨時損益 ^(*2)	▲257	742	999
経常利益	13,441	16,948	3,506
特別損益	96	▲1,517	▲1,614
連結当期純利益	8,526	9,848	1,322

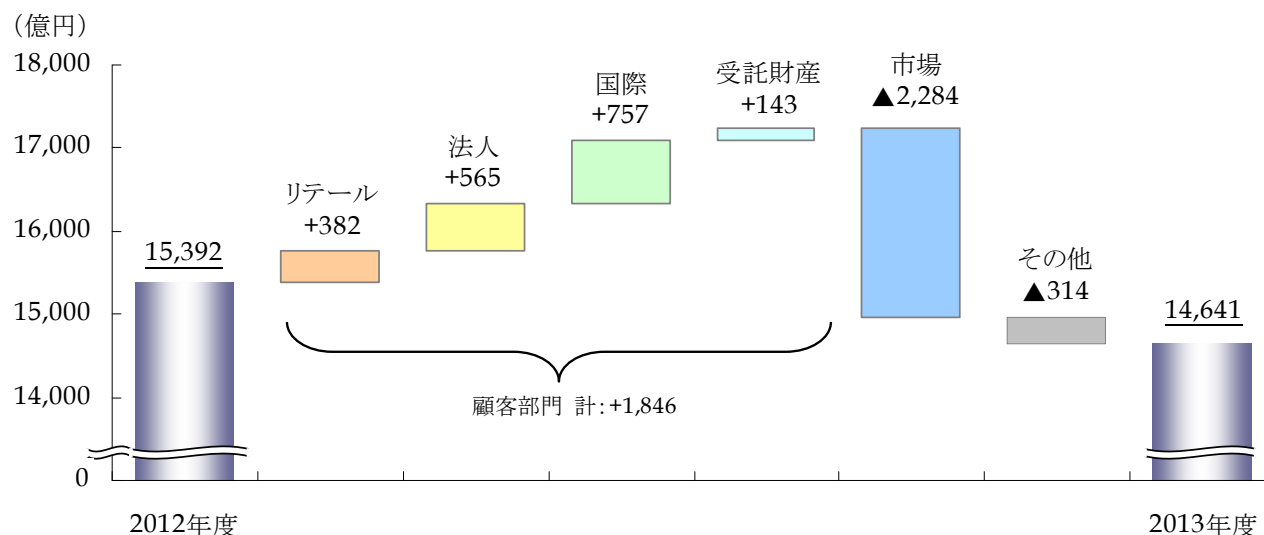
(*1) 与信関係費用(信託勘定) + 一般貸倒引当金繰入額 + 与信関係費用(臨時損益) + 貸倒引当金戻入益 + 偶発損失引当金戻入益(与信関連) + 償却債権取立益

(*2) 持分法投資損益、利息返還損失引当金繰入額を含む

連結事業本部別収益の状況

◇ 各種施策・グループ協働の取り組みにより、顧客4部門収益はいずれも前年度比伸張

[実質業務純益^(*1) 増減内訳]



(*1) 連結事業本部別増減は管理ベース

バーゼルⅢ連結自己資本比率

	2012 年度末	2013 年度末	増減
普通株式等 Tier1 比率 ^(*1)	11.70%	11.25%	▲0.45%
Tier1 比率	12.74%	12.45%	▲0.29%
総自己資本比率	16.68%	15.53%	▲1.14%

(*1) 普通株式等 Tier1 比率(完全実施ベース)は 11.1%

2014 年度業績目標・配当予想

(単位:億円)	2013 年度実績		2014 年度	
	中間期実績		中間期	
連結当期(中間)純利益	5,302	9,848	4,500	9,500
普通株式配当/株	中間 7 円	年間 16 円	中間 8 円	年間 16 円

2014 年度を取組方針

- ◇ 日本再興戦略の本格化への貢献
 - 日本を代表する金融グループとして、国内にしっかりと軸足を置き、金融仲介機能の積極的な発揮を通じて日本経済の復活を強力にサポート
- ◇ グローバル事業基盤の強化
 - アユタヤ銀行、ヴィエティンバンク、MU ファンドサービスといった新たな事業基盤を活用し、お客さまへの提供サービスを大幅に拡充
 - 米州において三菱東京 UFJ 銀行とユニオンバンクの事業基盤を統合
- ◇ G-SIFI に相応しいガバナンス態勢の追求
 - 社外の視点を重視した透明性の高いコーポレート・ガバナンス態勢をより強化すべく、社外取締役や社外専門家を主体としたガバナンス委員会を新設
 - 社外取締役を 2 名増員
- ◇ 中期経営計画の総仕上げ
 - 『世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ』の実現に向け、事業基盤・成長戦略の高度化にグローバルベースで取り組み、中期経営計画を完遂

以上

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Report をはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。